



波打ち際に向かう子ガメを見守る地元民＝仁我浦海岸で

大海原で元気に育て

和田の仁我浦海岸

ふ化したアカウミガメ放流

南房総市和田町の仁我浦海岸で、アカウミガメの子79匹が放流された。同海岸

で産卵された卵を、鴨川シーワールドが保護、ふ化したもので、この日を心待ちにしていた60人余の住民の手によって海に放たれた。

7月7日に同海岸で産卵が確認され、地元ではふ化を楽しみに見守っていた。しかし、台風などの高波による卵流失の危険性があったため、館山水産事務所がウミガメの保護活動を展開するシーワールドに保護を依頼。施設内の繁殖展示施設「海亀の浜」で、ふ化を

待っていた。今月1日から6日にかけて、甲羅の長さ約6・5センチ、体重200g程の子ガメが無事誕生したことから、この日、地元住民の手によって海に帰された。

シーワールド職員の説明を受けた後、子ガメを放った人たちは、波打ち際から大海原へと消え行く子ガメたちに「元気だね」「また帰ってきてね」などと声をかけ、無事な成長を願っていた。

アカウミガメ 世界中の熱帯から温帯域に分布し、日本では6月から8月に茨城県以南(まれに福島県)の太平洋の砂浜に上陸して、100から150個の卵を産む。ワシントン条約(絶滅の恐れのある野生動物種の国際商取引に関する条約)で、商業目的の取引が禁じられている。国内でも法律や条例で採捕や移動などが規制されている。

鴨川シーワールド

和田・仁我浦でも

ウミガメ放流

鴨川シーワールドのウミガメ展示施設「海亀の浜」でふ化したアカウミガメの子79匹が十八日午後、南房総市和田町の仁我浦海岸で地元の約六十人の手で放流された。

このアカウミガメの子

は、七月七日、仁我浦海岸で産卵した。地元ではふ化を楽しみにしていたが、台風の高波により卵の流失の危険がでてきたため、館山水産事務所の依頼で、鴨川シーワールドで緊急保護してきた。子ガメは今月一日から六日にかけて相次いでふ化した体長約6・5cm、体重約20g。

「元気だね」「また帰ってきてね」と声をかけながら放流した地元の人たちは子ガメが砂浜を歩き波打ち際から太平洋へと消える姿を熱心に見守っていた。

(写真下、地域住民が参加してのウミガメ放流で)



外 房 新 聞

平成18年9月20日(水)